

地域と大学 第40号

Newsletter No.40, Education Center for Regional Development

地域と大学の連携と融合を目指して ー地域創造学環の役割ー

地域創造学環長・地域創造教育センター副センター長 江口 昌克

静岡大学COC+における教育改革の一環として、従来の学部のカリキュラムを越えた全学学士課程横断型教育プログラムである地域創造学環は2016年4月に開設されました。翌年、本学は「地域志向大学」宣言を公表し、地域社会に貢献する人材育成を地域社会とともに進めるための大学改革を打ち出し、地域創造学環は地域創造教育センターの一部門として統合的な組織に位置づけられました。このことは、①大学が地域の課題解決に取り組む知の拠点として機能すること、②地域が学生に対し実践教育のフィールドとして機能すること、といった双方向貢献型のシステムができあがったことを意味するものでした。そして地域創造学環を卒業した学生が社会人として、さらに持続的な社会発展に貢献していくといった循環的なモデルが期待されるものでした。

2020年3月に地域創造学環の第1期生の卒業を迎え、足跡を振り返ってみたいと思います。まず、学生は1年次から3年間、県内各地でフィールドワークに取り組んできました（2019年度は14地域16テーマ）。例として、「商店街のにぎわい」「スポーツによる交流人口の拡大と産業推進」「新しい観光スタイルの発掘・創出」「SDG s /ESD)の推進」など、地域づくりにつながる多様な活動が展開されてきました。また2年次では静岡ロータリークラブの協力のもと、会員企業へのインターンシップ実習を行い、リーダーシップ、チームワーク、コミュニケーションなどのスキルを学ぶ体験を重ねました。こうした地域の自治体・NPO団体・企業の

方々の協働、そして何よりも懇切な指導をいただき、学生たちは、それぞれの課題を見出すことにつながりました。学生たちは、「課題とは、その地域の生活者が共有する実際上の困難であり、換言すれば未来志向の切なる願い」であることに確実に気づき、

このことは4年時での卒業研究に結実しています。そして、さまざまな報告会や地域連携会議の席を通じて、ステークホルダーの方々からも、「ともに教育に取り組む関係が進展した」との評価を得られるようになってきました。第1期卒業生における県内就職率は55%に達し、地域の牽引力となる基盤形成は着実に進んでいると認識しています。

今後、地域課題は高度化・専門化したものとなり、解決のためには広範囲な連携と融合が求められることが想定されます。また、地域の活性化・地域貢献は、国際的な競争や社会・環境共生の視点を加味したグローバルなアプローチをも必要としており、広い視野からの取り組みも求められることになるでしょう。地域創造学環はまだまだ発展途上です。持続可能な社会の発展に寄与する専門人材の育成に取り組むため、学内外の多領域からなる協業の幅を広げていく変革を目指していきたいと思います。



2019年度静岡大学公開講座

今年度の静岡大学公開講座は、4月から3月にかけて、多岐にわたるテーマで実施されました。全体の実施状況は下の表のとおりです。

今年度の実施結果をもとに、来年度以降の公開講座のあり方に結びつけていきたいと思います。

講座名	講師	日時	会場	対象	各日定員	延べ人数	受講料	主催
日本人の知らない中国 [全11回]	人文社会科学部准教授・張 盛開 早稲田大学非常勤講師・張 剣波 人文社会科学部教授・埋田重夫 静岡大学非常勤講師・金 小賢 大学教育センター准教授・翟 勇 人文社会科学部教授・南 富鎮 朝日テレビカルチャー講師・王 元武 静岡大学非常勤講師・盧 思 地域法実務実践センター教授・朱 曄 静岡大学非常勤講師・周 佩芳	4/13、5/18、6/3・22、 7/13・27(土)13:00～ 14:30、15:00～16:30 6/3のみ(月)18:00～ 19:30	静岡キャンパス	一般市民	60	202	無料	(人)
安心登山・アウトドア活動のための読図とナビゲーションスキル（中級編）	教育学部教授・村越 真 オリエンテーリング日本代表選手・小泉 成行	5/6(月)9:30～16:30	屋外（静岡市郊外）	過去に初級編を受講した方、又は地形図の基礎知識がある登山経験者で7km程度を無理なく歩ける方	20	14	3,600	(教)
私のミカン～ミカンの通年管理教室～ [全5回]	技術部技術専門職員・成瀬博規 技術部技術職員・周藤美希 農学部准教授・八幡昌紀	5/21、7/2、9/3、11/12、 3/3(火)13:30～15:30	農学部附属 地域フィールド 科学教育研究 センター藤枝 フィールド	一般市民	10	47	10,000	(技)
紅茶作りに挑戦しよう	農学部教授・稲垣栄洋 技術部技術専門職員・西川浩二 技術部技術専門職員・成瀬和子	7/25(木)13:00～16:00	農学部附属 地域フィールド 科学教育研究 センター藤枝 フィールド	小学生とその保護者、一般市民	20	17	1,000	(技)
作って学ぶ、工学部の化学実験	工学部教授・植田一正 技術部技術専門職員・草薙弘樹 技術部技術職員・早川敏弘	7/27(土)または7/30 (火)いずれも14:00～ 17:00	浜松キャンパス	中学生・高校生（保護者同伴可）	20	37	無料	(工)
遺伝子の世界を見てみよう [全2回]	グリーン科学技術研究所准教授・道羅英夫 技術部技術職員・森内良太 グリーン科学技術研究所特任助教・兼崎 友 技術部技術職員・山本千尋	8/7(水)10:00～17:00、 8/8(木)10:00～15:00	静岡キャンパス	県内高校生	20	38	無料	(グ)
体験!大学の化学実験 [全2回]	グリーン科学技術研究所教授・近藤 満	8/17(土)・18(日) 10:00～16:00	静岡キャンパス	中学生・高校生（保護者の同伴可能）、理科教育の関係者	30	41	無料	(グ)
中高生のための心理学講座～身近なリスクの心理学～	人文社会科学部教授・橋本 剛 人文社会科学部教授・幸田るみ子 人文社会科学部助教・高岡しの	8/20(火)9:30～12:30	静岡キャンパス	中学生・高校生	120	42	無料	(人)

講座名	講師	日時	会場	対象	各日 定員	延べ 人数	受講料	主催
愛おしさから読み解くくだもの の多様性～園芸と民藝の融 合～〔全3回〕	農学部准教授・松本和浩	9/20、10/11、11/22 (金)14:00～16:30	健康文化交流 館「来・て・こ」	くだものの栽培、 利用、消費に興 味があり、多様な 遺伝資源を使って 地域を活性化した い、あるいはコミュ ニケーションを活 発化したいと考 えている市民、学 生、生産者、企 業人など	60	148	無料	〔農〕
邦人作品の調べ ～明治から現代にかけて～	教育学部講師・服部慶子 教育学部准教授・長谷川慶岳 教育学部准教授・長谷川 慎 教育学部非常勤講師・大石陽介	9/28、11/23(土) 14:00～16:00	静岡市葵生涯 学習センター (アイセル21)	一般市民・生 徒・教員	200	147	無料	〔教〕
静岡大学キャンパスミュージアム 公開講座2019〔全5回〕	理学部准教授・徳岡 徹 人文社会科学部教授・戸部 健 理学部准教授・石橋秀巳 理学部非常勤講師、ふじのくに地球環境史 ミュージアム教授・岸本年郎 技術部・宮澤俊義	10/5・19・26、11/2(土) 10:00～12:00 10/19のみ10:00～ 12:00、13:00～15:00	静岡キャンパス	一般市民、学生、 小中高生（中学 生以下は保護者 同伴）	20	42	無料	〔キ〕
静岡の自然と文化 ～東部・伊豆半島を中心に～ ※台風のため中止、2020年 度開催予定	地域創造学環教授・小山真人 静岡大学名誉教授・白井嘉尚	10/12(土) 13:00～16:15	ブラサヴェルデ	一般市民	80	—	無料	〔地〕
市民社会と法〔全5回〕 ※第5回(2/29)は新型コロナ ウイルス感染拡大防止のため中 止、延べ人数は第4回までの合 計	地域法実務実践センター特任教授・ 中村和夫 地域法実務実践センター教授・ 板倉美奈子 地域法実務実践センター教授・朱 嘩 地域法実務実践センター客員教授・ 上原裕之 地域法実務実践センター教授・吉川真理	11/9、12/7、1/11、2/8・29 (土)13:30～15:30	静岡市葵生涯 学習センター (アイセル21)	一般市民	30	100	無料	〔法〕
情報学部公開講座2019 学校におけるプログラミング教 育の意義と課題	情報学部助教・遠山紗矢香 情報学部准教授・福田直樹 情報学部教授・吉田 寛 情報学部教授・太田 剛	11/9(土)10:30～12:00	浜松キャンパス	興味のある方な らどなたでも	70	91	無料	〔情〕

【主催欄凡例】

〔人〕＝人文社会科学部 〔教〕＝教育学部 〔情〕＝情報学部 〔工〕＝工学部 〔農〕＝農学部 〔地〕＝地域創造教育センター
〔法〕＝地域法実務実践センター 〔キ〕＝キャンパスミュージアム 〔グ〕＝グリーン科学技術研究所 〔技〕＝技術部



講座「私のミカン」作業風景



キャンパスミュージアム公開講座受講風景

地域創造学環部門の下半期（10月～3月）事業報告

静岡大学地域創造学環とは、2016年4月にスタートした従来の学部のカリキュラムを越えた新しい全学学士課程横断型教育プログラムです。静岡大学のすべての学部（人文社会科学部、教育学部、情報学部、理学部、工学部、農学部）の授業を履修することができます。幅広い教養と高い専門知識を身につけながら、積極的に地域（フィールド）に飛び出し、より魅力的な地域社会の創造に取り組むことができる人材を育成します。

地域創造学環のカリキュラムの柱となる「フィールドワーク」の授業では、地域と連携しながら地域課題の解決に取り組んでいます。

2019年度後学期は、静岡県内14箇所、16テーマで、地域の方々と交流しながら、地域の課題や資源を発掘し、課題解決のための提案や実践を行いました（各フィールドのテーマは下記の表を参照）。

また、フィールドワークの活動を発表する「フィールドワーク報告会」を毎年実施し、地域のみなさまに活動を知っていただく場を設けています。

地域創造学環のホームページでは、各フィールドの学生たちがフィールドワークの活動を随時紹介するコーナーもありますので、ぜひご覧ください。

静岡大学 地域創造学環ホームページ

<http://www.srd.shizuoka.ac.jp/>

※2020年4月から「地域サステナビリティコース」、「アート&マネジメントコース」、「スポーツプロモーションコース」の3コース制に再編することとなりました（この3コース制は2020年度の入学生から適応されます）。

【2019年度後学期フィールドとテーマ】

フィールド	テーマ
静岡市 清水港周辺地域	浜田・清水地区の情報発信とおもてなしによる交流・活動人口の増加
静岡市 庵原地区	地域資源を活かした食・スポーツによる地域活性化
静岡市 駒形通四丁目商店街	駒形通四丁目商店街のにぎわい創出
静岡市 浅間通り商店街	浅間通り商店街のにぎわい創出
焼津市 浜通り	地域住民と高校生との交流に基づいた地域づくり活動
浜松市 浜松文芸館 (公益財団法人 浜松市文化振興財団)	若者の文芸離れを食い止めよう
浜松市 佐久間町	暮らし体験で交流の環づくり
田園空間博物館 南遠州とうもの里	子どもを呼び込むための環境づくり
御前崎市	御前崎スポーツ振興プロジェクトスポーツによる交流人口の拡大と産業振興の推進
松崎町	①なまこ壁が残る松崎町商店街のにぎわい創出 ②防災と観光の両立
東伊豆町	新しい観光スタイルの発掘・創出プロジェクト
伊豆半島ジオパーク	①伊豆半島ジオパークにおける環境保全と防災対策 ②伊豆半島ジオパークの教育を支援するVRコンテンツづくり
県営団地	県営住宅団地における居場所づくりと地域福祉資源のネットワーク
学内地域連携拠点	静大発 地域と大学の連携を広めよう！

■ 浅間通り商店街

浅間通り商店街は、静岡市にある浅間神社の門前街として発展してきた商店街です。学生たちは、商店街の方々との交流を年ごとに深めていきながらフィールドワークを行っています。その結果、最近では、商店街のイベント時の企画の一部をまかされるようになっていきます。たとえば、昨年度からは、例年10月第1日曜日に行われる山田長政祭りの際に、1番街から5番街までである商店街の5番街全体を使い、「こども広場」と銘打って、子どもや親子連れを対象に様々な遊びを展開しています。

今年度も晴天に恵まれ、「こども広場」として、なわとびやドッチボール、学生たちが描いた山田長政の絵に色を塗る「長政色ぬり」、前回も大好評だった「地面に落書き」などを行いました。そして、遊んでいるこどもの写真をチェキで撮って、差し上げたりもしました。また、会場には、極彩色のタイ風の絵のボードを設け、自由に写真が撮影できる「フォトスポット」としました。さらに、長政祭りを宣伝するために、学生たちが祭りを紹介する記事を書き、商店街のFacebookにカウントダウン的に掲載していくことにも取り組みました。

今後も商店街と連携しつつこのような活動を展開していく予定です。



こども広場の紹介ボード



地面に落書き

■ ジオパーク（教育）

静岡県東部に位置する伊豆半島は、2012年より「ジオパーク」に取り組んでいます。伊豆半島ジオパークは、世界的に見て価値の高い火山の遺産を保全し、それを観光や教育に活用しながら、持続可能な地域社会づくりを進めています。地元のジオガイドや企業の方々が、研究者や自治体と共に活動しています。2018年4月には、ユネスコの世界ジオパークに認定され注目を集めました。

私たちのグループは、伊豆半島ジオパークにおいて、持続可能な開発目標（SDGs）の「誰一人取り残さない」というコンセプトに焦点を当てた活動を行っています。

ジオパークの見どころであるジオサイトの中には、山奥や海沿いで足場の悪い場所もあり、訪問することがなかなか叶わない方もいらっしゃると思います。そうした特別な支援を必要とする方へのジオパークの学習や、これまで以上により自主的かつ探究的な野外学習を推進することを狙いとして、バーチャルリアリティ（VR）技術を活用した教材化に取り組んでいます。

VR動画は、これまでジオサイトを訪れることができなかった生徒にも、まるでその場にいるかのような体験を通じて、ジオパーク学習の機会を確保することができます。また、郷土学習において、事前学習で予め教室でVRを使って視覚と聴覚で体験し、調べる点を明らかにし、野外でのジオサイトでは主体的に調査・観察するという探究的な学びを支援できます。今後は教材の実証化に向けて取り組んでいく予定です。



■ 県営団地

2018年より、静岡県社会福祉協議会との連携のもと、県内に多数ある県営団地を舞台に、特に、孤独死・孤立死などの問題が生じている高齢者の「居場所作り」をメインテーマに掲げ、静岡市清水区に位置する吉川団地に関わらせて頂くことになりました。

吉川団地では高齢化が著しく、交通の便もあまりよくありません。とはいえ、団地の中で取り組まれてきた「伝でん体操」の場が大変貴重で、私たちもこの体操の場に参加させて頂くところから始め、信頼関係の構築や住民ニーズの把握に努めてきました。また、折り紙の会やお花の会など、有志で取り組まれている活動に参加し、学生主体で取り組めることを模索してきました。



非常食試食会の様子

2019年に入り、学生主体の「非常食試食会」を実施し、これが非常に好評で、続けて、映画上映会、カラオケ大会と続け、多様な居場所を地域とともに作り上げてきました。2019年後期には、子ども会がなくなっていたことから、子どもの居場所作りとして、ハロウィンとクリスマスに合わせて会を実施し、子どもたちや若い親御さんたちとも繋がることができました。これらは自治会との共催で実施し、団地内に自治の雰囲気が醸成されました。「きっかわ日和」という広報紙も作り学生の存在をアピールすることにも着手しました。

今後は、住民ニーズを把握し、住民主体のまちづくりや地域福祉の環境を整備していくのと同時に、清水区内の他地域との連携や先進事例の応用などに着手していきたいと考えています。



ハロウィンイベントの様子

2019年度地域創造学環フィールドワーク報告会 開催のお知らせ

学生たちがこの1年を通して、フィールドワークでどのような取り組みを行ってきたのか、下記の日時で報告をさせていただきます。

入場無料、事前申込不要、入退出自由です。ぜひ、ご来場ください。

日時 2020年5月28日（木）10：15～15：25

場所 しずぎんホールユーフォニア

（静岡市葵区追手町1番13号アゴラ静岡8階）

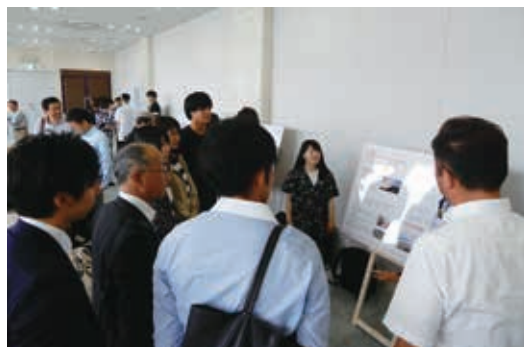
静岡鉄道新静岡駅徒歩5分、JR静岡駅徒歩10分

お問い合わせ先

静岡大学 教育連携室 地域創造学環係

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

電話 054-238-4256（土・日・祝を除く9～17時）



昨年度開催した「2018年度フィールドワーク報告会」の様子

美術を専攻する学生による美術作品の公募展示「コペル2019」

地域創造学環アート&マネジメントコースでは、第9回キャンパスフェスタ in 静岡の企画として、2019年11月16・17日の両日に「コペル2019」をテーマとして、美術を専攻する学生による美術作品の公募展示を行いました。

展覧会タイトルは鑑賞者の価値観の「コペルニクス的転回」を目指すことを意図したものであり、2日間での来場者数は300人を超えました。

来場者アンケートでは、美術作品を通して考えを巡らすことによって新たなものの見方や価値観がもたらされたという意見が複数寄せられ、鑑賞者一人一人の体験も実りあるものになったようです。このように多くの地域の皆様がアートに触れ、考える機会をもたらすことができたことは、大学の教育活動が地域の方々に理解してもらうという意味において大きな成果であったといえます。

また、出展した学生には鑑賞者から直接感想を聞ける機会となり、マネジメントに携わった学生には広報

や出展作家の作品制作の進捗を把握したりするなどの実務経験の機会となり、多くの学びを得られた意義深いものであったといえます。

なお、今回が初めての企画であり、準備や当日の運営方法については学生主体で運営したとは言い切れない部分もあり、課題も残りました。



あいちトリエンナーレ 2019に関する講演会及び座談会を実施

地域創造学環主催行事として、2019年11月28日の午後に「あいちトリエンナーレ2019」でプロジェクト・マネジャーを務められた塩津青夏氏による講演会及び座談会を教育学部G棟104号室にて実施しました。

この講演会にはアート&マネジメントコースの学生のほか他コース学生や地域の方16名を含む107名の参加がありました。

講演では8月以降にマスコミでも取り上げられた国際美術展「あいちトリエンナーレ2019」の企画展「表現の不自由展・その後」にも触れられました。

多くの方々に参加いただけたのは、皆が関心を持つことのできる共通のテーマであったことが理由の一つかと思われます。普段、美術に携わっていない方々にも訴えかけて議論の場を生み出すきっかけになったのではないのでしょうか。

学生の参加者には大学院生や学環のアート&マネジメントコース以外の学生の参加も見られ、当時のマスコミ報道からは知ることのできなかつた企画展が中止

となった理由についての説明もあり、この度の事態をより深く理解する一助となりました。

講演後は塩津氏と参加者による自由な意見交換会を行い、フロアからも質問や意見が複数寄せられました。地域の方々を交えた上で活発な議論を生み出すことができたことは講演会・座談会の大きな成果でした。



地域人材育成・プロジェクト部門の下半期事業報告

静岡大学創立60周年記念事業を継承した連携講座

1 静岡大学・読売新聞連続市民講座「令和を生きる～新時代への展望～」

回	開催日	タイトル	講師	参加者
1	7/6(土)	自然災害と防災対策	原田賢治(静岡大学防災総合センター准教授)	134
2	8/17(土)	日常と非日常からみることと脳の科学	宮崎 真(静岡大学情報学部教授)	158
3	9/7(土)	環境は持続可能か?～微生物による環境浄化の開発～	新谷政己(静岡大学工学部准教授)	115
4	10/5(土)	スポーツによる地域の活性化	村田真一(静岡大学地域創造学環准教授)	109
5	11/2(土)	人工衛星データが語る富士山・伊豆半島周辺の動き	三井雄太(静岡大学理学部講師)	129

■会 場：あざれあ（静岡県男女共同参画センター）6階大ホール

■参加費：無料

■連携先：読売新聞東京本社静岡支局

2 静岡大学・中日新聞連携講座「静岡大学が拓く新たな地平」

回	開催日	タイトル	講師	参加者
1	10/1(火)	素数ゼミの謎～進化物語の科学～	吉村 仁(静岡大学工学部教授)	64
2	10/29(火)	浜松発!情報科学的二輪車研究&センチメートル級!高精度衛星測位研究開発都市プロジェクト	木谷友哉(静岡大学情報学部准教授)	65
3	11/12(火)	リスクをどう教えるか～SNSのリスクから子どもを守る～	塩田真吾(静岡大学教育学部准教授)	51
4	12/10(火)	目に見えないものを加工する ～ナノスケールに挑む顕微鏡技術～	岩田 太(静岡大学工学部教授)	64
5	1/21(火)	電気計測標準について(量子標準の基礎)	小野行徳(静岡大学工学部教授)	50

■会 場：静岡大学浜松キャンパス 附属図書館浜松分館(S-Port)3階大会議室

■参加費：無料

■連携先：中日新聞東海本社

地域連携応援プロジェクト

今年度下半期に取り組んだプロジェクトの実施状況を報告します。

科学講座を通じた地域活性化プロジェクトin 吉田町「理科館、静岡大学連携特別講座」

吉田町立「ちいさな理科館」と静岡大学技術部が連携して、小学4年生～6年生を対象とした全5回の科学講座を開催しました。講座開講数の減少、利用者の固定化や小学3年生以上の理科離れ等、同館の近年の課題を踏まえ、技術職員が持つ専門的な知識や経験を活かした講座を開講することで、理科館の活性化を目指すとともに、青少年を含めた一般の方々の科学技術への興味・関心を促し、吉田町の学ぶ環境を再構築する

きっかけになることを目的として実施しました。

・日時:2019年9月21日(土)～12月8日(日)[全5回]
13:30～15:00

・プログラム:

①9/21(土)「DNAを取り出してみよう」講師:大橋和義(静岡大学技術部技術専門職員) 参加者数9人

②10/19(土)「人工イクラを作ってみよう!」講師:早川敏弘(静岡大学技術部技術職員) 参加者数4人

③11/9(土)「-200℃の世界をぞいてみよう!」講師:井上直己(静岡大学技術部技術専門員) 参加者数10人

④11/24(日)「身近な放射線を測ってみよう!」

講師：柿添崇文（静岡大学技術部技術職員） 参加者数8人

⑤12/8（日）「身近なもので電池を作ってみよう！」

講師：芦澤雅人（静岡大学技術部技術職員） 参加者数9人

- ・受講料：1回100円
- ・定員：10人
- ・会場：吉田町立「ちいさな理科館」



地域課題解決支援プロジェクト

地域からの課題提案を受け、学生・教職員と地域住民が協働して解決支援を試みる「地域課題解決支援プロジェクト」も7年目に入っています。今年度下半期に取り組んだ課題の進捗状況について報告します。

○松崎町

松崎町では課題提案を受け、「商店街の魅力発掘とにぎわい創出」「防災と観光の融合」のテーマに分かれ、地域創造学環フィールドワークを実施しています。商店街グループでは11月9～10日、11月30～12月1日（学生有志）、1月25～26日、3月7～8日、観光と防災グループでは11月30～12月1日、2月15日にフィールドワークが行われ、松崎町役場や松崎高校等と連携しながら課題に取り組んでいます。

11月30～12月1日、松崎フィールドワーク生および松崎町で種々の活動を行う早稲田大学、常葉大学、松崎高校の学生・生徒が参加した「松崎未来デザイン会議」が開催され、松崎町のトレジャーハンティングやワークショップが行われました。

○東伊豆町

東伊豆町では課題提案を受け、NPO法人ローカルデザインネットワーク（以下、LDN）を受入れ母体として、「新しい観光スタイルの発掘」をテーマに10月19～20日、12月20～22日、2月28日～3月1日にフィールドワークが行われました。東伊豆町商工会青年部、空き家改修プロジェクトを展開する芝浦工大生との連携・交流を図り「東伊豆未来会議」に参加するなど課題に取り組んでいます。

12月21日にはLDNと東伊豆FWによる共催で、フォトリゲイニング「INATORI QUEST」が開催されました。

○南伊豆町

南伊豆町では第2期公募への課題提案を契機に伊浜地区での活動を始め、静岡大学地域人材育成研修会「ご当地カルタを作ろう」の取り組みを継続しています。2月8～9日（地域人材育成部門主催事業参照）。



○賀茂キャンパスの開設

静岡大学が取り組む松崎町、東伊豆町、南伊豆町での活動をはじめとして、大学が賀茂地域で様々な活動を展開できるよう、静岡県・賀茂地域局は下田市に「賀茂キャンパス（賀茂地域大学交流拠点施設）」を開設し、1月24日に賀茂キャンパス開所式ならびに賀茂キャンパス活用推進委員会キックオフ会議を行いました。開所式では丹沢哲郎理事・副学長が講演を行い、キックオフ会議では、フィールドワーク等、大学と賀茂地域による取り組みの実態と成果を松崎町教育委員会および静岡大学地域創造学環学生が報告し、今後の可能性と課題について賀茂地域自治体と大学の代表者がディスカッションを行いました。

主催事業

公開シンポジウム

「地域課題をめぐりつなぐの可能性」

地域の様々な課題を公募し、その解決支援を試みる「地域課題解決支援プロジェクト」が7年目を迎え、県内各地で活動を展開しています。様々な地域課題に対する取り組み、地域と大学との新たな連携・協働の事例に学びながら、地域社会の中で展開することによって広がる教育と研究の可能性を探りました。

- ・日時：2019年12月26日（木）13:15～17:00
- ・会場：静岡大学静岡キャンパス共通教育A棟301
- ・プログラム：

[報告1]「伊豆半島における地域づくりの課題と可能性」報告：深澤準弥（松崎町教育委員会）、山口一実（南伊豆町地方創生室）、荒武優希（NPO法人ローカルデザインネットワーク）

[報告2]「知的障害者の「生きる力」をアートで伝え「多様で寛容な社会」をクリエイトする」報告：久保田 翠（NPO法人クリエイティブサポート・レッツ理事長）

[報告3]「しずおかキッズカフェ」報告：小林タバサ（しずおかキッズカフェ代表）

[報告4]「フューチャーセンター×地域 各地の取り組み事例から」報告：増田彩香、小田しずく（静大フューチャーセンター）

[報告5]「農業をもっと身近に～学校放課後児童クラブにおける活動報告～」報告：榊原宏美（静岡県立静岡農業高等学校）、いきものがかり

[パネルディスカッション]

パネリスト：報告者、課題提案者

コーディネーター：阿部耕也（静岡大学地域創造教育センター教授）

- ・参加費：無料
- ・参加者数：71人

地域連携セミナー

「学んで楽しい！—大学で学ぼう—」

障害者の就労を支えるためには、余暇の充実や生涯学習が重要であり、近年、大学での実践が多数報告されています。学びの環境づくりと効果的な支援を提供することを目的に、下半期は2回実施しました。

2019年度第2回

- ・日程：2019年10月27日（日）
- ・プログラム：

[演習] アイスブレイク～学びのなかま～

[講義]「楽しく歩こう、正しく歩こう」

- ・参加者数：24人

2019年度第3回

- ・日程：2019年12月8日（日）
- ・プログラム：

[演習] アイスブレイク～学びのなかま～

[講義1]「日本猫事情」

[講義2]「台湾文化を学ぶ」

- ・参加者数：24人

共通事項

- ・会場：静岡大学学生会館
- ・参加対象：静岡市と周辺の地域の障害のある社会人
- ・参加費：無料
- ・企画：静岡県障害者就労研究会

公開講演会

障害者を取り巻く教育、労働等の諸問題について、法律等の現状や今後の対策を専門家が解説する講演会を、下半期に2回開催しました。

2019年度第2回

- ・日時：2019年10月27日（日）13:30～15:30

「地域で働き暮らすために～障害者雇用に関わる法律と障害者雇用の現状～」

- ・講師：松為信雄（東京通信大学人間福祉学部教授）
- ・参加者数：48人

2019年度第3回

- ・日時：2019年12月8日（日）13:30～15:30

「働き続けるために・生涯学習編」

- ・講師：神田基史（帝京大学教育学部教授）
- ・参加者数：35人

共通事項

- ・会場：静岡大学学生会館
- ・対象：一般市民、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員、学生
- ・参加費：無料
- ・企画：静岡県障害者就労研究会

地域人材育成研修事業

「伊浜でカルタ！」

伊浜に暮らすみなさんが伊浜の好きな場所や思い出の場所を調べ、良いところ、人に紹介したいこと、後世に残したい光景を写真に収め、地域でその財産を共有することを目的として、上半期に続き実施しました。
[冬編]

- ・開催日：2020年2月8日（土）～9日（日）
- ・内容：秋・冬版の絵札・読み札の作成と夏版カルタの選考
- ・参加者数：30人
- ・会場：伊浜山村活性化支援センター
- ・参加費：無料

共催事業

地域づくり人材研修事業 「公民館主事等研修会」

公民館活動等を通じて生涯学習事業を展開している生涯学習指導者への教育研究情報の提供、大学とのネットワークづくりや指導者の資質の向上をはかり、公民館の事業や活動を効果的に推進することを目的に、静岡県教育委員会との連携事業として実施しました。

- ・日時：2019年11月29日（金）10:20～16:00
- ・会場：静岡市長田生涯学習センター
- ・プログラム：
 - [基調報告]
 - 「駄菓子屋楽校と地域づくり～つながりを育む社会教育～」報告者：松田道雄（尚絅学院大学人文社会学群教授）
 - [事例報告]
 - ①「住み慣れたまちにずっと安心して暮らすために」報告者：清水美江（磐田市田原交流センター／平成30年度優良公民館表彰館）
 - ②「地域で創る学習教室～誕生から3年目のしまだはつくら寺子屋～」報告者：西田正鋭（島田市初倉公民館館長）
 - ③「学校と地域をつなぐ「地域連携担当教職員」」報告者：遠藤淳平（静岡大学教職大学院2年）
 - [事例報告とグループワーク]「親子と地域をつなぐ」
- ・参加費：無料
- ・参加者数：45人
- ・主催：静岡大学地域創造教育センター、静岡県教育委員会

企画協力事業

静岡市・大学連携事業 市民大学リレー講座 「海から考えるしずおかの魅力」

- ・日時：2019年9月21日（土）～11月23日（土）
10:00～11:45

- ・プログラム：
 - ①9/21（土）「インバウンド市場の現状と課題～クルーズ船市場も含めて～」
講師：北上真一（静岡県立大学特任教授）
 - ②10/5（土）「食の考古学～海産物の今昔物語～」
講師：丸山真史（東海大学講師）
 - ③10/26（土）「広めよう！駿河湾の魅力」
講師：宗林留美（静岡大学理学部准教授）
 - ④11/9（土）「海と作物」
講師：前田節子（静岡英和学院大学教授）
 - ⑤11/23（土）「清水港を活かした観光戦略を考える」
講師：須佐淳司（常葉大学准教授）
- ・受講料：無料
- ・会場：静岡市役所清水庁舎
- ・受講者数：延べ158人
- ・主催：静岡英和学院大学、静岡県立大学、静岡大学、東海大学、常葉大学、静岡市

大学特別公開講座「脳科学 環境 AI 新たな時代を生きる3つのヒント」

- ・日時：2020年1月24日（金）～2月7日（金）[全3回]
19:00～20:45
- ・プログラム：
 - ①1/24（金）「環境は持続可能か～微生物による環境浄化の開発～」講師：新谷政己（静岡大学工学部准教授）
 - ②1/31（金）「人工知能が拓げる農業の可能性」講師：峰野博史（静岡大学情報学部教授）
 - ③2/7（金）「日常と非日常からみることと脳の科学」
講師：宮崎 真（静岡大学情報学部教授）
- ・受講料：2,000円
- ・会場：吉田町中央公民館
- ・受講者数：延べ77人

静岡市北部生涯学習センター講座 「実例から学ぶマーケティング」

- ・日時：2020年2月8日（土）～2月22日（金）[全3回]
14:00～16:00
- ・プログラム：
 - ①2/8（土）「マーケティングの仕組み」
 - ②2/15（土）「マーケティングにおける組織体制」
 - ③2/22（土）「顧客接点とマーケティング」
- ・講師：牛場 智（静岡大学人文社会科学部・地域創造学環准教授）
- ・受講料：無料

- ・会場：静岡市北部生涯学習センター
- ・受講者数：13人

静岡県議会事務局との連携事業 県議会議員と学生による意見交換会

今年度は会場を静岡大学のキャンパスに移して意見交換会を実施しました。

- ・日時：2019年11月7日（木）14:00～15:00
- ・会場：静岡大学静岡キャンパス
- ・テーマ：静岡県を若者が住みたいまちにするために
- ・参加者：静岡大学地域創造学環・日詰ゼミ学生7人、静岡県議会議員2名

市民開放授業

静岡大学市民開放授業は、静岡大学の学生が受講している正規の科目の一部を一般市民の方に開放するものです。単位の認定はありませんが、入試なし、受講資格不要、簡単な手続きで受講できます。2019年度の前・後学期別の開講科目数・受講者数の状況は次のとおりです。

開講科目数			受講者数		
前学期	後学期	合計	前学期	後学期	合計
195	196	391	158	142	300

3月と9月の年2回、静岡・浜松両キャンパスで事前説明会を開催しています。ご参加お待ちしております。

<コラム> 地域の声

静岡大学が「地域課題解決プロジェクト」を掲げ、地域の課題を募集したことから、松崎町で地域活性化やこれからのまちづくりに大学の研究や大学生の若い力を生かせないかと思い、日本でも課題先進地域であることを逆転の発想で武器にし、いくつもの課題を静岡大学へ投げ込みました。時を同じくして、静岡大学が、2016年度から新しい取り組みとして「地域創造学環」を立ち上げ、地域の課題解決学習に乗り出してくれました。そのフィールドワークの対象として松崎町の課題を2つ採択していただき、関わりを持たせていただくこととなりました。

このような形で地域と大学が連携することで、地元の住民や高校生、中学生が刺激を受け、地域全体が元気になっていきます。地域の課題解決に学生が関わり、学習していくことは、地域で丁寧に受け入れることができれば、互いに多くのメリットを享受できます。これからも大学との連携の可能性を信じ、実践しながら地域と大学、そして学生ともに地域課題に取り組んでいきたいと思います。

松崎町教育委員会 深澤 準弥

2019年度企画実施委員会

当センターには、「企画実施委員会」が組織されています。地域連携・課題解決に関する事項や全学公開講座の企画・立案・実施に関する事項、その他大学開放および地域人材育成に関する事項について検討しています。今年度の委員は以下のとおりです。

阿部 耕也 地域創造教育センター長
江口 昌克 地域創造教育センター教授
皆田 潔 地域創造教育センター准教授
岸本 道明 地域創造教育センター特任教授
笠井 仁 人文社会科学部教授
渋谷かさね 教育学部准教授
酒井三四郎 情報学部教授
三重野 哲 理学部教授
戸田三津夫 工学部准教授

水永 博己 農学部教授
水谷 洋一 地域創造学環教授
松尾由希子 教職センター准教授
村本 定則 学務部教育連携室長

地域と大学 第40号

発行日——2020年3月27日

発行——静岡大学地域創造教育センター

編集——大谷 悦子

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836
(事務局別館2階)

TEL: 054-238-4817 FAX: 054-238-4295

E-mail: kaiho@suml.cii.shizuoka.ac.jp

URL: www.lc.shizuoka.ac.jp/

(事務局) 学務部教育連携室 ☎ 054-238-4055